

2 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	<p>村の養育者たちの小児ケアや子どもの摂食行動に対する意識が向上し、保健センターとコミュニティとの連携で適切なタイミングで子どもが小児保健サービスにアクセスできる。</p> <p>(今期事業達成目標) 事業完了後の持続発展性を高めることを目指し、保健センターでの保健サービス提供のサポートとコミュニティでの保健教育の実施を効果的に行い、村びとの子どものケアに関する意識と知識の向上を図り、家庭にて養育者が子どもの成長促進のためのケアを適切に行なえるようにする。</p>
(2) 活動内容	<p>本事業（第3年次）における2022年1月19日から2023年3月31日までに実施した活動（主に中間報告以降の活動）を以下に報告する。</p> <p>1. 保健センターでの適切な子どものケアサービス提供のための施設が整備される</p> <p>(活動 1-1-3) 保健センターの産後ケア室の利用状況のモニタリング 第1年次から継続して、2022年1月から2023年3月まで、ピアムゴッスナー保健センター、アレアッタノー保健センター、クポッタゴン保健センター、オームルー保健センターの対象4保健センターにおいて、産後ケア室の利用状況のモニタリングを行った。それぞれの産後ケア室の利用率は、アレアッタノー保健センター94.9%、クポッタゴン保健センター89.6%、ピアムゴッスナー保健センター59.2%、オームルー保健センター89.6%であった。</p> <p>3保健センターは使用率ほぼ90%もしくはそれ以上達成したが、ピアムゴッスナー保健センターの利用率は、他の保健センターと比較して低い。要因としては、周囲より低い土地に保健センターがあるため、雨が続くと敷地内に水が溜まりやすく、特に雨季は、降雨時の滞在に不安や心配を抱き、出産後すぐに帰宅する産婦が多かったと推察される（2022年1月から5月まで42.5%。その後、2022年6月から2023年12月までは69.8%）。</p> <p>(活動 1-2) 小児用医療機器の管理目録（インベントリ）のモニタリング 2022年6月と2023年1月、保健行政区と協力して作成したインベントリのモニタリングを対象4保健センターにおいて実施した。各保健センターでは、インベントリが適切に活用されていること、また、定期的に医療機器および備品の管理が行われていることが確認された。</p> <p>2. 保健センターでの子どものケアの質が向上する</p> <p>(活動 2-1) 保健センター内連携強化のためのスタッフ会議支援 第1年次から継続して、2022年1月から2023年3月まで、保健センタースタッフ会議支援として、会議の開催準備のチェック及び会議でのファシリテーション・スキルの評価を、技術チェックリストに基づいて対象4保健センターで行った。とりわけ、オームルー保健センターとピアムゴッスナー保健センターでは重点的な支援を行い、チェックリスト達成率は、オームルー保健センターで91%、ピアムゴッスナー保健センターで95%と目標である90%を達成した。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が収束に向かい、保健センター利用率は感染拡大前の水準に戻りつつある。COVID-19 ワクチン接種や、貧困層対象の社会福祉制度の促進とともに、保健センターの利用</p>

促進を継続する。

(活動 2-2) 子どものケア・疾病管理技術向上促進

第1年次から継続して、2022年1月から2023年3月まで、保健行政區スタッフが、出産後の退院前カウンセリング (PNC) **(活動 2-2-1)**、子どもの成長促進 (GMP) **(活動 2-2-2)**、小児疾患統合管理 (IMCI) **(活動 2-2-3)** の技術確認を行うとともに、その日の保健センタースタッフ会議の中でフィードバックを行った。年間12回実施する計画であったが、事業実施期間の約2.5ヶ月間の延長に伴い、合計15回実施した。保健行政區スタッフが保健センタースタッフ会議に参加することにより、保健行政區からの伝達事項の周知を徹底して行うとともに、保健センターの現状や問題を的確に把握するなど、管理監督能力の強化に取り組んだ。

(活動 2-2-4) 保健行政區および保健センタースタッフを対象とした GMP および IMCI に関する再研修支援

中間報告書にて報告済み。

(活動 2-3) 保健行政區における小児科チーム連携(PCAT)会議を支援

2022年7月と12月、ストゥントロン保健行政區にてPCAT会議を開催した。コンポンチャム州保健局スタッフ、保健行政區スタッフ、リファラル病院スタッフ、保健センタースタッフが参加した(7月21人、12月32人)。保健行政區内の12保健センターのIMCI、GMPおよびPNCの技術指導 **(活動 2-2)** の結果を共有するとともに、子どもの栄養とIMCIに関する再研修 **(活動 2-4)** ので習得した技術・知識の定着度が確認された。

(活動 2-4) 保健センタースタッフを対象とした子どもの栄養とIMCIに関するコーチング

2023年1月、4日間にわたり、対象4保健センターにて、保健省スタッフがファシリテーターとなり、保健行政區スタッフと保健センタースタッフを対象とした子どもの栄養とIMCIに関するコーチングを行った(第1年次と第2年次に実施した研修・再研修後のフォローアップ)。保健センターの外来患者に対し、栄養に関しての正しい観察と適切な処置ができていないか、ガイドラインに基づいたIMCIが行われているかなどを確認した。保健センターには、子どもの栄養補助食が常備されていることなどが確認された一方で、栄養不良が疑われる患者への適切な観察・処置ができていない場面も確認され、保健省スタッフが保健センタースタッフに丁寧に指導した。

3. 子どものケア支援ネットワークが構築される

(活動 3-1-2) 保健センター運営委員・保健ボランティア会議(2ヶ月毎)と母子保健ボランティア会議(3ヶ月毎)の実施

保健センター運営委員・保健ボランティア会議を2ヶ月に一度、母子保健ボランティア会議を3ヶ月に一度の頻度で、それぞれ定期的に開催している(2022年6月から2023年3月末まで、前者はアレアッタノー保健センターで2回、ピナムゴッスナー保健センターで4回、クポッタゴン保健センターで5回、オームルー保健センターで4回、後者は対象4保健センターで4回ずつ実施)。これらの会議は、保健センターとボランティアが協力しながらコミュニティの健康向上に取り組むための貴重な機会である。保健センターは、ボランティアから報告されるコミュニティの健康状況を把握して、適切な保健サービスの

提供に活かすことができる。また、ボランティアは保健センタースタッフから保健知識を学び、保健教育や家庭訪問の指導を受けることができる。

後半期では、保健センター運営委員・保健ボランティア会議は、大雨や台風などの悪天候、COVID-19 ワクチン接種強化活動による保健当局・医療者の多忙等の影響を受け、計画通りに開催できなかった保健センターもあった。母子保健ボランティア会議は、事業実施期間の延長に伴い、計画された回数より1回多く実施し、事業終了後もボランティアが継続的に活動していけるように、これまでの活動を振り返りながら、自立に向けての話し合いの機会となった。

(活動 3-2) 保健ボランティアと母子保健ボランティアの村での情報共有の仕組みづくり

2022年7月、対象4保健センターにて、保健ボランティアと母子保健ボランティアの合同会議を開催した(参加者49人)。村での情報共有の仕組みづくりとその実用を通して、お互いにサポートしあうコミュニティを目指すという目標が、各保健センター長から説明された。情報共有の方法としては、FacebookやLINE、Telegramといった多くの人が利用しているSNSを活用していくことが確認された。スマートフォンを所持していない家庭や、雨期や遠隔地で円滑な共有ができない状況などの問題も議論された。

4. 家庭での子どものケアの知識が向上する

(活動 4-1-3) 保健センタースタッフによる保健ボランティア対象の知識再トレーニングの実施と (活動 4-2-2) 保健センタースタッフによる母子保健ボランティアを対象にした小児栄養再トレーニングの実施

中間報告書にて報告済み。

(活動 4-1-4) 保健ボランティア・母子保健ボランティアによる5歳未満の子どもを持つ母親・養育者を対象とした子どものケア・栄養・衛生教育・啓発活動の実施

2022年6月に今次1回目(5月の活動は中間報告書に報告済み)、2022年10月から2023年2月に、今次2回目の村での保健教育を実施した(対象村34村にて参加者数計1,315人)。離乳食の調理実習と子どもの栄養・衛生についての保健教育の後に、学んだ知識に関するクイズセッションを行い、地域住民の保健知識の定着を図った。村での保健教育では子どもの参加も多く、開発されたレシピをもとに作った離乳食は、多くの子どもたちがよく食べられることを確認した(余った離乳食を家庭に持ち帰る参加者もいた)。また、保健ボランティア・母子保健ボランティアと共に、参加者が主体的に調理実習の準備をするなど、ボランティアとコミュニティとのよい関係が作られていることがうかがわれた。この活動は、母子保健ボランティアによる栄養教育と2歳未満の子どもへの離乳食の調理実習(活動4-2-4)と統合させて実施した。

(活動 4-2-1) 教育活動の開始前と終了後に母親・養育者対象にしたテストの実施

保健ボランティア・母子保健ボランティアによる村での衛生教育と離乳食の調理実習の後に、5歳未満児をもつ養育者156人に知識テストを実施した。結果は平均77点であり、目標の70点を上回った。

(活動 4-3) 母子保健ボランティアによる家庭訪問とそのモニタリング

母子保健ボランティアは、妊産婦を対象にした家庭訪問を定期的に行っている。妊婦健診（ANC）、産後健診（PNC）、子どもと妊婦の栄養、子どもや妊婦の危険兆候等の保健教育や、子どもや妊婦の健康を害する恐れのある危険な習慣の説明等の啓発活動を、家庭訪問により実施している。母子保健ボランティアはコミュニティの一員であり、個々の母と子が抱える保健問題への理解とともに、家庭やコミュニティの生活に影響をおよぼす人の立場や意見を理解しながら、保健教育を行う。そのため、一人ひとりに寄り添った家庭訪問による保健教育の効果として、健康を害する恐れのある伝統的な習慣の減少が報告された。保健行政区と協力して作成したチェックリストに基づき、PHJ スタッフが母子保健ボランティアの家庭訪問をモニタリングしてフィードバックを行うことにより、母子保健ボランティアのスキル向上にも取り組んだ。2022年1月から2023年3月まで、母子保健ボランティアは合計1,385回（妊娠期792人、周産期593人）の家庭訪問を行った。

5. 保健行政区との協働促進とモニタリング

(活動 5-2) 保健行政区スタッフと半年に一度、活動進捗及び成果を確認するモニタリング評価ワークショップの実施

2022年7月と2023年3月、ストゥントロン保健行政区にてモニタリング評価ワークショップを実施した。

2022年7月でのモニタリング評価ワークショップでは、前半期の活動を振り返った（参加者13人）。COVID-19の感染拡大の影響により活動を制限せざるを得ない状況もあったが、おおむね計画通りに活動を進めることができたことを確認した。また、保健行政区スタッフ、保健センタースタッフ、保健ボランティア・母子保健ボランティアによる衛生啓発活動により、地域住民の衛生意識が高まっていることなどが確認された。

2023年3月でのモニタリング評価ワークショップでは、事業終了後も、良質な保健サービスを提供するために、改善・工夫すべき点などを議論した（参加者16人）。保健センターの改善点として、24時間サービスの強化と、コミュニティと保健センターとのさらなるネットワークの強化が挙げられた。加えて、村での保健教育の継続や保健センター利用者のさらなる増加を目指すために、地域行政との連携のさらなる強化が必要との意見が出された。また、地域住民の保健知識のさらなる向上のために、保健ボランティアと母子保健ボランティアへの教育・指導も継続していくとのこと。

(活動 5-3) 他保健行政区に対してマネジメント改善の成果を伝える発表

2023年1月に、コンポンチャム州保健局の月例会議にて、ストゥントロン保健行政区長が、2019年にN連事業で実施されたタケオ州アンロカ保健行政区へのスタディツアーとその成果を発表した。州保健局スタッフ、リファラル病院スタッフ、他の保健行政区長、コンポンチャム州で活動するNGOのスタッフが参加した（参加者27人）。学んだ知識を基に保健行政区のマネジメントを強化したところ、保健センターの24時間体制の強化、全保健センターでの2人以上の助産師の配置、保健センタースタッフの34人に対する意識の向上等の変化があったと報告された。今後の課題としては、保健センタースタッフの患者に対する態度の向上に（ホスピタリティ）努めていきたいとのこと。

	<p>(活動5-4) 事業成果を関係者と共有する事業評価セミナーの実施 2023年3月、ストゥントロン保健行政区にて、事業評価セミナーを施した(参加者25人)。N連事業3年間で実施した活動やその成果を確認したのち、州保健局スタッフ、保健行政区スタッフ、保健センタースタッフ、リファラル病院スタッフ、地域行政スタッフのグループに分かれて、本事業の活動で取り組んだ各自の経験やその成果について共有し合い、全体に発表した。主に、保健センターの保健サービスの質的向上と地域住民の保健知識の向上が達成されたという評価が多く寄せられた。また、各グループが、事業終了後も、この事業を通して向上したパフォーマンスとその効果を持続させるために、どのような取り組みを行うかが議論された。保健システムにおける関係者間の連携強化の他に、母子保健ボランティア会議や保健行政区スタッフによる保健センタースタッフへの技術指導は、今後も保健行政区のリーダーシップのもとで継続していく。</p>																																				
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>プロジェクト目標に対する期待される成果を測る指標と目標値 本事業開始(2022年1月)から2022年12月までのプロジェクト目標の達成度を測る各保健指標の推移を以下に報告する。 ※成果指標は3つの保健センター(アレアッタノー、ピアムゴッスナー、クポッタゴン)が対象。</p> <p>表1. 成果指標の達成状況</p> <table border="1" data-bbox="592 913 1410 1440"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>事業開始時</th> <th>3年次完了時</th> <th>3年次目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産後検診4回目受診率</td> <td>8%</td> <td>47.1%</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>身体測定(GMP)登録率</td> <td>44%</td> <td>59.2%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>IMCI技術チェックリスト(平均点)</td> <td>N/A</td> <td>97点</td> <td>90点</td> </tr> <tr> <td>GMP技術チェックリスト(平均点)</td> <td>N/A</td> <td>96点</td> <td>90点</td> </tr> <tr> <td>身体測定(GMP)3ヶ月継続受診率</td> <td>48%</td> <td>77.8%</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>保健ボランティアと母子保健ボランティアのテスト結果</td> <td>74% (事前テスト)</td> <td>92% (事後テスト)</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>定期予防接種受診率</td> <td>94%</td> <td>97.2%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>地域住民の知識テストスコア</td> <td>28%</td> <td>77%</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table> <p>1. 保健センターでの適切な子どものケアサービス提供のための施設が設備される (1)産後健診(PNC)4回目受診率 対象3保健センターでの年間推計出産数(2022年)は732件であり、出産後のPNC4回目を適切な時期に受診した産婦数は345人(47.1%)と、目標値(40%)を上回った。第2年次の39.2%から、顕著な上昇傾向が確認された。事業終了後もよいパフォーマンスを継続するために、引き続き、保健ボランティア、母子保健ボランティア、保健センタースタッフが協力しながら、地域住民へ産後健診の大切さを啓発していくことを確認した。</p> <p>2. 保健センターで子どものケアの質が向上する (1)身体測定(GMP)登録率 対象3保健センターでの年間推計1歳未満児数(2022年)は709人であり、GMP登録率は420件であった(59.2%)。2022年前半期(1月~6月:22.4%)、COVID-19ワクチン接種キャンペーンで保健センター</p>	成果指標	事業開始時	3年次完了時	3年次目標値	産後検診4回目受診率	8%	47.1%	40%	身体測定(GMP)登録率	44%	59.2%	90%	IMCI技術チェックリスト(平均点)	N/A	97点	90点	GMP技術チェックリスト(平均点)	N/A	96点	90点	身体測定(GMP)3ヶ月継続受診率	48%	77.8%	80%	保健ボランティアと母子保健ボランティアのテスト結果	74% (事前テスト)	92% (事後テスト)	80%	定期予防接種受診率	94%	97.2%	100%	地域住民の知識テストスコア	28%	77%	70%
成果指標	事業開始時	3年次完了時	3年次目標値																																		
産後検診4回目受診率	8%	47.1%	40%																																		
身体測定(GMP)登録率	44%	59.2%	90%																																		
IMCI技術チェックリスト(平均点)	N/A	97点	90点																																		
GMP技術チェックリスト(平均点)	N/A	96点	90点																																		
身体測定(GMP)3ヶ月継続受診率	48%	77.8%	80%																																		
保健ボランティアと母子保健ボランティアのテスト結果	74% (事前テスト)	92% (事後テスト)	80%																																		
定期予防接種受診率	94%	97.2%	100%																																		
地域住民の知識テストスコア	28%	77%	70%																																		

スタッフが多忙になり、GMP 登録のフォローアップが十分でなかった時期があったが、7 月以降、保健センタースタッフによる住民への働きかけにより、登録率の上昇が確認された。

また、2023 年 1 月 30 日と 31 日には、ストウントロン保健行政区にて、保健省スタッフとコンポンチャム州保健局スタッフがファシリテーターとなり、更新された GMP 登録に関する研修を行った（参加者 39 人）。GMP の記録や報告方法などを講義した後、記録の練習をおこなった。事業終了後も、保健行政区スタッフの指導のもと、保健センタースタッフの正確な記録を徹底する。

(2) 保健センターにおける小児科サービス（GMP と IMCI）の技術チェックリストの平均点

保健行政区スタッフが、技術チェックリストを基に、保健センタースタッフの小児科サービス（IMCI と GMP）をモニタリングした。その結果は以下のとおりである（2022 年 1 月～2023 年 3 月）。各保健センターの平均値は、第 3 年次の目標値である 90 点を超えた。第 2 年次と比較してスコアの上昇がみられ、保健センタースタッフの子どものケアに関する知識・スキルが着実に定着しつつあることがうかがえる。

表 2. 各保健センターの小児科サービス技術スコア達成状況(100 点中)

保健センター	IMCI 2 年次終了時	IMCI 3 年次終了時	GMP 2 年次終了時	GMP 3 年次終了時
アレアッタノー	90 点	96 点	92 点	97 点
クボッタゴン	97 点	98 点	94 点	95 点
ピアムゴッスナー	96 点	97 点	93 点	96 点
平均点	94 点	97 点	93 点	96 点

3. 子どものケア支援ネットワークが構築される

(1) 身体測定（GMP）3 ヶ月継続受診率

対象 3 保健センターでの 2021 年 10 月から 2022 年 9 月の GMP 登録人数は 370 人*であり、その内 3 ヶ月継続数は 288 人（77.8%）であった。第 3 年次の目標値（80%）にはわずかに及ばなかったが、第 2 年次の 74.5 %から顕著な上昇傾向が確認された。

*3 ヶ月目の GMP 受診は初回の GMP 登録から 2.5 ヶ月後に行うため、上記の GMP 登録人数のデータは 2021 年 10 月から 2022 年 9 月までの合計であり、3 ヶ月継続数は 2022 年 1 月から 12 月までの合計である。

(2) 保健ボランティアと母子保健ボランティアのテスト結果（確認方法：知識テスト）

保健ボランティアと母子保健ボランティアの能力強化研修を実施したところ、事後テスト結果の平均点は第 3 年次の目標である 80 点を超えた（表 3）。

表 3. 保健ボランティア・母子保健ボランティアの事前・事後テストスコア（100 点中）

保健センター	第3年次 事前テスト結果	第3年次 事後テスト結果
アレアッタノー	70 点	94 点
クボッタゴン	74 点	94 点
ピアムゴッスナー	74 点	89 点
平均点	74 点	92 点

	<p>4. 家庭での子どものケアの知識が向上する</p> <p>(1) 定期予防接種受診率</p> <p>対象3 保健センターでの年間推計1歳未満児数(2022年)は709人で、3回目の5種混合ワクチンと1回目の麻疹ワクチンを接種した子どもの数は689人(97.2%)だった。第3年次の目標値(100%)にはわずかに及ばなかったものの、事業開始前の指標は上回った。</p> <p>保健センターのスタッフによると、子どもたちは予防接種に来ているものの、予防接種担当のスタッフが村でのCOVID-19ワクチン接種キャンペーンのため不在にしていることが多く、来院する子どもの予防接種には他のスタッフが対応し、記録方法を知らないスタッフによる記録漏れが生じたと報告を受けた。</p> <p>(2) 養育者の子どものケアに関する知識テストの結果</p> <p>2020年7月(第1年次)、保健教育活動の開始前にテストを実施し、平均点は100点中28点だった。2021年10月(第2年次)のスコアは、目標の60点には到達しなかったものの、第1年次の2倍となる56点に上昇し、2022年11月(第3年次)のスコアは77点まで上昇し、目標値の70点を上回った。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業は、対象地域の保健行政区スタッフ、保健センタースタッフが適切な保健サービスを継続して提供するための保健システムの強化を支援することに主眼を置いた取り組みである。外からの人材の投入や新しい仕組みの導入ではなく、現地の人材の能力強化や保健行政区と保健センターの連携活性化、保健センターとコミュニティのネットワークづくりなど、事業の取り組みが地域に根付き継続するための支援である。</p> <p>(ハード支援) 本事業の第1年次において、クポッタゴン保健センターの産後ケア室を建設した。建設完了後、第2年次から第3年次にかけて、保健センタースタッフと共に、産後ケア室の衛生状況および利用状況のモニタリングを行い、産後ケア室の適切な維持管理と使用を支援した。また、産後ケア室機材の点検方法、インベントリの確認・記録も支援した。事業終了後も、保健センタースタッフによる良質な産後ケアサービスを受けながら、産後の女性と生まれた赤ちゃんが安心して滞在できる産後ケア室を、保健センタースタッフが責任をもって維持管理していく。</p> <p>(ソフト支援) 本事業では、事業対象地の保健行政区スタッフ、保健センタースタッフ、ボランティア、地域住民、女性と子どもたちを対象にして、多種多様な教育支援を行った。研修や訓練、教育などで習得した知識や技術が、よりよい保健サービスの提供や適切な保健サービスの利用、健康的な生活習慣の実践につながるために、研修や教育活動の実施後のフォローアップと継続的な技術指導、一人ひとりに寄り添った家庭訪問を繰り返して支援した。事業終了後も、(活動2-2)子どものケア・疾病管理技術向上促進、保健行政区保健センタースタッフ、(活動3-1-2)保健センター運営委員・保健ボランティア会議(2ヶ月毎)と母子保健ボランティア会議(3ヶ月毎)等は、保健行政区が主体となって継続し、また、保健センターが地域保健の中核となって、コミュニティとのネットワーク強化に努めていく。</p>